

シャインマスカットの栽培管理 ～新梢管理、チャノキイロアザミウマ対策、曇天多雨対策～
佐賀県果樹試験場 副場長 太田 政隆

【新梢管理】

果実肥大を促して糖度を高めるためには、枝を遅伸びさせず棚面の葉にまんべんなく光を当てること

が重要です（写真1）。伸びている副梢は摘芯をこまめに行ってください。棚面が暗い場合は、枝が被さっていないかを確認し、摘心しそこなった副梢や重なった不要な新梢を除去してください。

シャインマスカットは、副梢を2、3回摘芯すると伸長がほぼ止まるくらいが望ましい樹相です。収穫期が近くなっても副梢が旺盛に伸びるようであれば、樹勢が強すぎますので施肥を控えてください。



写真1 棚面を明るく保つ

【かん水】

シャインマスカットは水を好みますので、年間を通してやや湿った状態（pF1.8）を保つ必要があります。

水が不足すると果皮が硬くなり、新梢と果実の水の奪い合いで縮果症が出やすくなります（写真2）。梅雨明け後は土壌が乾燥します。pFメーターを確認して2～3日おきにかん水を行ってください。



写真2 軽微な縮果症（食べたとき硬い）

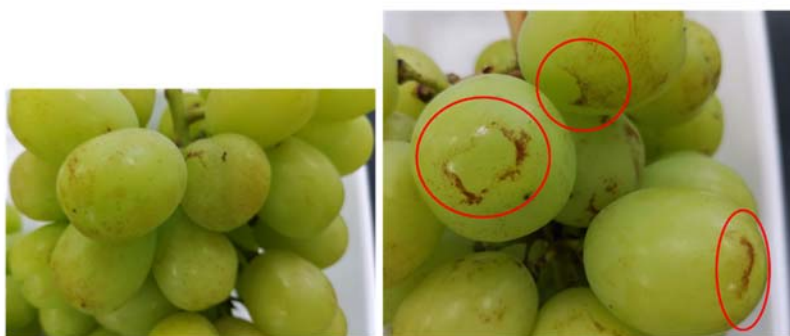
【チャノキイロアザミウマ対策】

シャインマスカットは、他品種よりアザミウマの被害を受けやすく、果皮が緑色で被害が目立ち

ますので、防除を徹底してください。

○被害の特徴

チャノキイロアザミウマは、新梢先端のやわらかい葉や果実を食害します。本虫は隙間を好み、果実袋の中に入り込みますので、多発生時には袋掛け後も被害が出ます。本虫の被害はかすり症と似ていますが、かすり症が果実全体にぼんやりした薄墨状のしみの症状が出るのに対して、果粒と果粒が接する部分や果粒と袋が接する面が黒くなります。(写真3)。



かすり症

アザミウマ(スリップス)被害

*果粒表面にぼんやりとしたしみの症状

*果粒と果粒が接する部分、果粒と袋が
触れ合う面に被害が多い

写真3 かすり症とチャノキイロアザミウマ被害の特徴

○防除対策

チャノキイロアザミウマは、軟弱な葉に集まりますので、副梢の摘芯を行ってください。また、副梢に着いた花穂(2番花)に本虫が寄ってきますので見つけたら必ず落としてください(写真4)。本虫による被害を防止するために、袋掛け後もダントツ水溶剤やアルバリン(スタークル)顆粒水溶剤などで2回程度防除を行ってください。

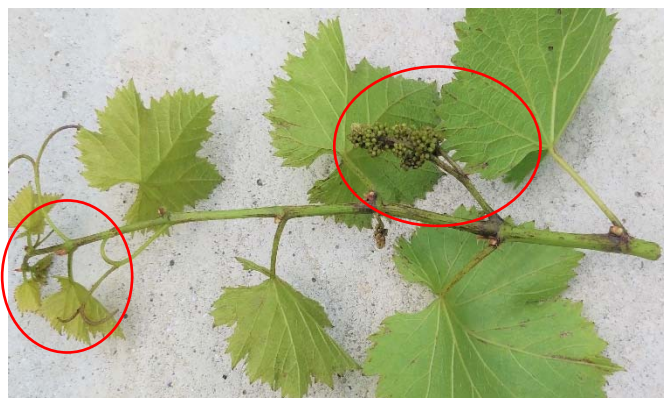


写真4 チャノキイロアザミウマによる被害(副梢と花穂)

*花穂は必ず除去する。このような被害が見られたら、袋掛け後も早急に防除を行う。

【曇天多雨対策】

○裂果対策

シャインマスカットは裂果しにくい品種ですが、曇天多雨の年は裂果が発生しやすくなります。

*発生のおくみ

ベレーゾーン期（水回り期）から成熟期にかけては、糖度が上昇するとともに果皮の強度が低下します。この時期に大雨が降ると果粒の旺盛な肥大に果皮が追いつかず、裂果します。特に高温・乾燥が続いた後の大雨は裂果を助長します。また、成熟期に曇天が長く続く場合は、葉からの蒸散が抑えられるため裂果が助長されます。

*対策

裂果を防ぐためには、果実の初期肥大を促すために早期摘粒と新梢管理を徹底するとともに、土壤水分の乾湿の差をできるだけ小さくする必要があります。シャインマスカットに好適なやや湿った土壤状態を保つためにかん水をこまめに行ってください。

園内に水が流入しやすい園では、余分な水が入り込まないように土のうや明きよを設置し、水が溜まった場合は、ポンプ等で排水してください。

○食味を確認

曇天が続く場合は、晴れがしばらく続いて食味が十分に向上したことを確認してから収穫してください。曇天下では2週間経っても糖度はほとんど変わりませんが、晴れが1週間程度続くと糖度がぐっと上がります。但し、着色が進むとかすり症の発生が多くなり、日持ちも悪くなりますので、果色を時々確認して収穫が遅くならないようにしてください。